

自治行政局市町村課

柳 優也

YANAGI YUYA

平成 27年 4月 総務省採用

自治行政局行政課総務室

平成 28年 4月 同 自治行政局行政課

平成 29年 4月 熊本県総務部市町村・税務局市町村課

平成 30年 10月 現 職



ふるさとを守るために

20年後、30年後を見据えて

現在、日本の人口は毎年約30万人ずつ減少しています。1町村当たりの平均人口が約1万人ですから、1年で30町村分に相当する人口が減少しているとも言えます。人口構造が大きく変わり、高齢者人口が最大となる2040年を迎えるとき、私たちは教育、医療、福祉などの基本的なサービスを当然のように享受し、上下水道や道路といったインフラを当然のように使用することができているでしょうか。私たちの暮らしを身近で支える各市町村は、こうした行政サービスの全てについて、自らの市町村のみで提供することが難しくなるかもしれません。

自治行政局市町村課では、こうした問題認識のもと、市町村が将来にわたり行政サービスを提供し続けていくために必要な体制について検討し、「連携中枢都市圏」をはじめとした市町村同士の連携や、都道府県による市町村事務の補完、自主的な「市町村合併」など、様々な制度の企画・立案をしており、日々、将来の国民生活を守るために奮闘しています。

地方のために

地方のために何ができるか。入省後すぐに総務省職員の熱を感じました。その熱さの根源にあるのは、職員一人一人が持つ大切なふるさと、出身地や出向先への想いです。

入省後3年目に出向した熊本県では、県内を見て回り、同僚と飲みに行き、各地域のお祭りに参加する中で、熊本の方々の優しい人柄や地域ごとの多様な文化を肌で感じました。他方で、その地域を支える市町村が、熊本地震をはじめとする災害からの復旧や公共施設の老朽化、上水道の持続的な経営など、様々な課題に直面していることを痛感し、出向後は、お世話になった熊本の方々、そして熊本に限らず、全国の地域に暮らす住民の方々の暮らしを守るために市町村の体制を整備するんだ、という意気込みで地方行政に携わっています。

生まれ育ったふるさとや、お世話になったふるさとへの強い想いを原動力に、出向を通じて得た現場感覚を持って、国として地方のために仕事ができる、それが総務省です。

Week Schedule

Monday

週末に開催する会議の資料を総務省の各種調査結果などを基に作成。

Tuesday

都道府県や市町村から制度運用の実態を聞き取り。資料に反映します。

Wednesday

国会議員から明日の国会で質問するとの通告が！答弁を迅速に作成します。

Thursday

市町村長が来省し要望。現場の実情を丁寧に伺い、総務省としての対応を検討。

Friday

会議に出席し、有識者の意見を基に課題を整理。そして退庁後は打ち上げへ！

Private Time

休日には、友人とドライブや温泉旅行、音楽のライブなどに行き気分転換をしたり、サイクリングやギターなどの趣味に打ち込んだり、仕事から離れてリフレッシュする時間をつくっています。最近では、職場の先輩方と音楽バンドを組み、発表会に向け、流行りの曲を和気あいあいと楽しく練習しています。

